

真ん中のところ(●)をつまんで左右に開く

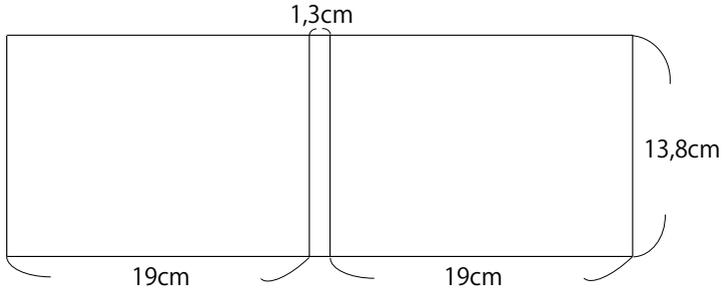
「遠足のしおり」と「メモ・スケッチ帳」

遠足のしおりは大きすぎると邪魔になります。そこでA3の紙をハページになるように折ります。そして中の四ページ分のところに切り目を入れます。そして真ん中をつまんで左右に開き、折り目をかえると簡単な本のかたちになります。天地を考えページをふって絵を描くと、遠足のしおりになるのです。この原本をもとにコピーをすれば一クラス分がすぐにできあがります。

子どもが遠足にいった先で、見たもの聞いたことをメモしたりスケッチしたりする時にも、この「一枚の紙」は役に立ちます。八枚の紙の厚みになるので鉛筆で記入することもできます。ポケットに入れて持ち運びができます。博物館や美術館ではボールペンは使用禁止で鉛筆を使います。

四・折れ本型絵本を作る

日本の絵巻物は、和紙を糊で継ぎ足し長い巻紙にして絵を描いたものです。学校で使う四つ切りか八つ切りの画用紙のように、決められた画面に描くのと違い、自分が必要な長さで自由に絵を描く楽しさは格別です。絵巻では時間と空間の広がりを描くことができます。しかし、巻物の状



厚紙の表紙

態では巻きもどすのが大変で本棚にしまうことができません。そこで長い紙を「お経の本」のように屏風折りに畳んで表紙をつけると保管しやすくなります。他の本と一緒に本棚に入れることもできます。

折れ本の形は自由に自分で決めるといいのですが、ここでは大学生が『二十歳の自叙伝絵巻』を作ったようすと、子どもと大人が毛筆ペンで折れ本型絵本を作ったようすを述べます。

二十歳の自叙伝絵巻折れ本型絵本

表紙は、今のように便利なファイルがなかった時、「美濃表紙」といって書類を綴じて保存する時に使われたものです。入手できない時は画用紙より分厚いしつかりした厚紙を使うといいです。

今回使ったのは縦二十七、六センチ、横三十九、三センチのものを二等分して、縦十三、八センチ、横三十九、三センチのものを使いました。それを上図の長さで折り曲げ表紙にしました。

絵を描く長い紙は機械漉きの奉書紙を使いました。小学校の子どもが木版画を摺る時に使うのが「機械漉きの奉書紙」あるいは「鳥の子紙」です。縦十二センチ、横百十センチを各自が必要なだけつないで描きました。

少ない人でも三枚三百三十センチ、長い人は十枚つなぎ、千百センチにもなり



『二十歳の自叙伝絵巻』

ました。表紙におさまるように一センチの糊しろをとり、十八センチごとに折り目をつけ、屏風のように山折り谷折りを交互にして折っていきました。

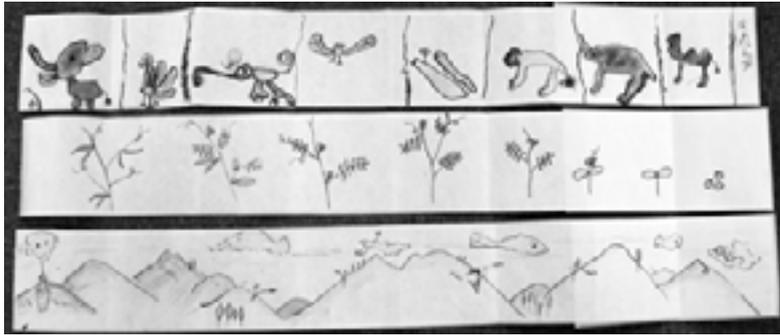
描く前に折り目をつけると絵が伸びやかに描けないので、描いた後で折り目を入れてください。絵を描き終わったら、表紙の裏側の糊しろに糊をつけ貼りつけます。

鉛筆で下書きをすると線の表現がかたくなります。そこで何を描くのかアイディアスケッチを別の紙に自由に描き、それを参考にして毛筆と墨で思いきって本紙に描くようにしました。

学生は毛筆に慣れるまでは戸惑いながら描いていましたが、書き直しのできないので集中して緊張感のある線を引くことができました。鉛筆で書き直していた時とちがいで、伸びやかな線で人物の動いている感じを表現することができました。墨がよく乾いてから絵具の三原色（赤・黄・青）を混色して自分の色を作り出して塗りました（二十三ページ参照）。

「手作り絵本を楽しむ会」で作った折れ本型絵本

平成十九年十月から平成二十年三月まで、毎月一回土曜日の午後、二時間ほどで完成する簡単な絵本講習会「手作り絵本を楽しむ会」を大学



①

②

③

折れ本型絵本

の構内で開きました。誰でも参加することができるようになりました。

上の三冊の折れ本型絵本は、講習会に参加した六歳の男の子(①)とお母さん(②)、そして文庫活動をされている方(③)が作ったものです。

男の子は大好きな恐竜の仲間をたくさん描きました。お母さんは豆が成長するようすを順を追って描きました。文庫活動をしている人は、魚が空を飛ぶ空想的なお話を絵本にしました。

この三人の人たちは、毛筆で絵を描くのも絵具の三原色を混色して色を塗るのも初体験でしたが、それぞれ自分が興味関心をもっているものを毛筆ペンで楽しそうに短時間で描いていました。色も独自の混色をして、絵の雰囲気にあった彩色ができました。

中学生の『沖縄修学旅行絵巻』の折れ本型絵本

奈良教育大学を十年前に卒業して美術の教師になった人が、大学生の『二十歳の自叙伝絵巻展』を見て、中学生に「沖縄修学旅行絵巻」の授業を試みました。人物画を描くのが苦手な中学生たちが、自分と友人、沖縄で出会った人たちを毛筆で描き、三原色を混ぜて色を塗りました。描きはじめるまでは、躊躇してなかなか筆が進まなかったようです。

美術を担当する先生が生徒たちのままで手や足を動かし、関節ごとに曲が

ることを気づかせ、時には動いている人物の略画を黒板に描いて見せたそうです。そうすると生徒は描く手がかりを掴み、毛筆を使いはじめると集中してぐいぐい描き進めました。いままで鉛筆で下絵を描く時とちがって、毛筆は描き直しができないので思いのほか短時間で線描きをしました。

さらに、赤・黄・青の三原色だけ絵具を出し、混色して墨線の上から彩色すると、色が濁らず、楽しみながら美しい彩色ができたそうです。いままで絵を描くことが苦手だった生徒も、力強い毛筆の線で多くの人物を描き、修学旅行の思い出を描くことができた達成感で満足しました。

わたしは中学三年生の生徒全員が質の高い絵巻を描いたことに感動しました。そこで百二十六点全作品を借りて、奈良教育大学の教育資料館で開催中の大学生の二十歳の自叙伝絵巻と一緒に展示しました。中学生が一筆一筆こころを込め真剣に描いた絵巻のすばらしさに、大学生も地域の方々もたいへん驚きました。



中学生の『沖縄修学旅行絵巻』の折れ本型絵本



中学生の『沖縄修学旅行絵巻』の折れ本型絵本